

Group	Type	fuel	Mod	Cool.	temp	Cap. MW	cor	pressure vessel	cost		
									heat in	heat out	heat elec.
Commonwealth Edison	th mat.	gr. He	384	650	350	49	35 $\times 20$	44^2 35^2 ft		850	
Public Service of N. J. Corp.	" " heat mat.	D ₂ O	388	640	1,068	211		20^2 37^2		560	
	" heat enr.	light H ₂ O	369	480	1243	246		12^2 $\times 39$		297	
Bechtel & Pacific General Electric	" mat	D ₂ O H ₂ O	384	500	500	101	13x11			405	
	pass	V-235	/	Na	600	900	500	145	3x3	/	350
Monsanto and	th enr.	18 0.83 232t	gr Na	300	605	1,000	210 $\times 20$			476	
Union Elec.	" 0.9%	232t	" "	300	805	900	3000 $\times 554$			282	
	" heat enr.	18	" "	300	825	675	125 $\times 15$			450	
Detroit Ed. Douch.	" V-235 Pu	/	Na	400	1,000	600	200	3x3			

昭和 年 月 日

(中央公論社用筆)

3

すり下りのべ、先ず AEC の 1951 年以来 47 の "R-7" (CS 1 番) が追加された
 に資料を提供し、行つた厚効率電の型と経済性の研究結果、
 (1953 年初の発表) に表中より R-7 から、現在の選定を考
 虑検討 (2 号よ).

結果は次の如く。

Bechtel Corp. → Pacific Gas and Electric Co. の 1 + 2 の型、27112 の厚効率電と、熱効率は同じ

	用地	内子炉機器	燃料	冷却回路	補助回路
105kw.水冷 thermal reactor	2,800	14,400	1,200	6,350	1,500
155kw. Na 冷却 fast reactor	2,800	10,800	6,000	11,000	4,300
	850.	24,350	9-ビン 燃素	12,650	1200 共公輸社
	1,500	33,100	36,400	13,600	1,500
					51,500.

○經濟學的と厚価計算法の主要を述べ、それらの厚+ノ差
額の特徴などを説いて意味をもつてみよう。

鉄道の運賃は、"普通厚価"である。普通厚価
が同じでも、運賃が同じであるを意味すが、これはまた
同様の運転條件が同じであるからである。

±2.

建設費	運轉費(年內)	
水冷 thermal $41,000,000^{tiv}$	1,580,000.	(45)
ナトリウム fast $51,500,000$	1,520,000.	(45)

80% 設備利用率 $1 \text{ kW} \times 24^h \times 360 \times \frac{80}{100} = 6912 \text{ kWh}$

↓
154,000kW $6912 \times 154 = 1070,448$,000

年間発生電力 $1,070,448,000 \text{ kWh}$

固定費

~~年間発生電力 × 8% の運轉費~~
~~（純利或は利益、諸税額・特許使用料、保険、減価・陳舊化償却等）~~

$$a \% \quad (\text{純利或は利益、諸税額・特許使用料、保険、減価・陳舊化償却等})$$

$$\text{固定費} = \text{建設費} \times a$$

$$\text{発電原価} = \frac{(1\text{kW当} \times \text{運賃費} \times a)}{8640 \times h} + 1\text{kWh当} \times \text{運転費}$$

$$= 1\text{kWh当} \times \text{固定費} + 1\text{kWh当} \times \text{運転費}$$

fixed charge

operating cost



原価曲線が下へ傾く

1.89 には 原子力発電と火力発電所の共通する部、原価を $90\text{f}^{\prime\prime}/\text{kW}$,
火水蒸気の発熱率 (~~原生~~ 原子力発電所では原水炉、火水蒸気機、汽笛、火水蒸気は未行) を $125\text{f}^{\prime\prime}/\text{kW}$, $48\text{f}^{\prime\prime}/\text{kW}$, 故効率を原水共 34% ,
石炭をトン $8\text{f}^{\prime\prime}/\text{t}$, 燃料費 0 , 蒸気における燃料費の運転費
 $\approx 0.7 \text{ mill } (\text{f}^{\prime\prime} = \frac{1}{1000} \text{ f}^{\prime\prime})$, $\Rightarrow a = 11\%$

二大場合

(1)	$\gamma = \frac{50}{50} \% \text{ } \delta$	固定費	運転費 (燃料、勞功力) 修理費等	経営面
	火力	3.3	3~3.7	6.6~7.0
	原燃料	5.4	1.2~1.6	6.6~7.0

と同様の如き

	$\gamma = 80 \% \text{ } \delta$			
	火力	2.1	3~3.7	5.1~5.8
	原燃料	3.5	1.2~1.6	4.7~5.1

より風向は原燃料が有利である。

(1) は	火力	9.3 ~ 10.0.	原燃料	12.0 ~ 12.4.	(中央公論社用箋)
昭和年月日					

8

やあせ ②

① a が 何とかと火力 どうか; とは まいか。

昭和 12 年 8 月 5 日

a: 減価・陳舊化(進歩), 純利・利益, 諸種特許, 律令
技術の進歩 — 両者 一 同一

本

1) おそれによる設備の損耗が 何とかの方大きくなるべ
きかもしくはそれが 何とかをとつておけばよ。

2) 有機性物質は永久の毒性をもつておるから 減価を考慮する
中等毒性よりはるかに

② 通航量の上昇 (貿易・勞働の上昇 は (昭和 12 年 8 月))

もう一つの例(?) は 大きいある。 貨物・荷物

③ 外国為替

石炭を輸入(2.12 國) だけの内訳, 日本でこれは更大

昭和

年

あす

日

(中央公論社用筆)